

【今週の注目疾患】

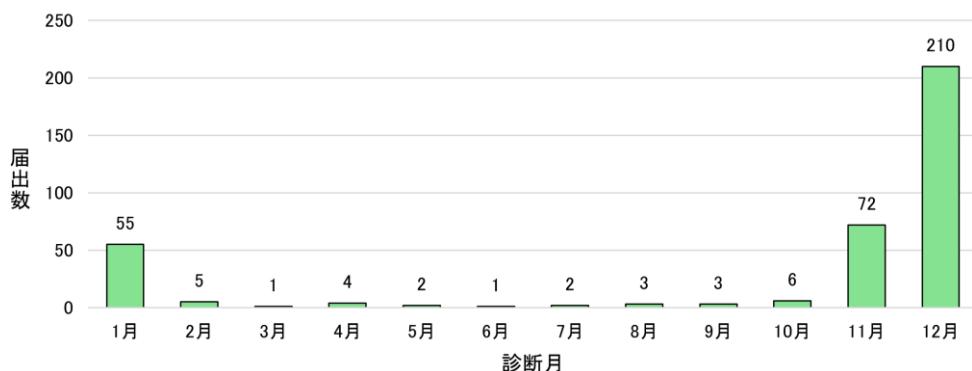
《つつが虫病》

2025年第51週に県内医療機関から10例の届出があり、本年の累計は43例となった（図1）。県内では、例年11月頃から翌1月頃にかけて届出数が増加する傾向にあり（図2）、注意が必要である。

図1:2020年から2025年第51週までの県内のつつが虫病診断年別届出数(n=364)



図2:2020年から2025年第51週までの県内のつつが虫病診断月別届出数(n=364)



2020年から2025年第51週までに届出のあった364例の概要は下記のとおり。性別では、男性211例（58%）、女性153例（42%）であった。年齢階級別では、70代が140例（38%）と最も多く、次いで60代81例（22%）、80歳以上78例（21%）であり、60代以上が全体の8割以上を占めた。推定感染地域は県南部が多いが、他の地域でも発生がみられている（表）。

表:2020年から2025年第51週までの県内つつが虫病推定感染地域別届出数

保健所地域	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	総計
安房	30	39	30	34	25	27	185
夷隅	18	17	9	10	5	4	63
君津	4	4	4	4	5	3	24
市原	1	1	7	5	1	3	18
海匝	4	2	1	2			9
長生	2			3	1	1	7
印旛				2	4		6
山武	2		2	1		1	6
香取	2	3					5
千葉市				1			1
船橋市				1			1
県内(市町村の記載なし)	2	5	7	6	6	2	28
県外		1	1			2	4
海外				1	1		2
不明	1			2	2		5
総計	66	72	61	72	50	43	364

つつが虫病の病原体は *Orientia tsutsugamushi* と呼ばれるリケッチアで、ダニ類の一種であるツツガムシが媒介する。わが国で本菌を媒介するツツガムシは主に3種類であり、それぞれのツツガムシの0.1%から3%が菌をもつ有毒ツツガムシである。ヒトはこの有毒ツツガムシに吸着されると菌に感染する。吸着時間は1日から2日で、ツツガムシから動物への菌の移行にはおよそ6時間以上が必要である。潜伏期間は5日から14日で、典型的な症例では高熱を伴って発症し、皮膚には特徴的なツツガムシの刺し口（黒色痂瘍）がみられ、その後数日で体幹部を中心に発疹がみられるようになる。また、患者の多くは倦怠感、頭痛を訴え、患者の半数には刺し口近傍の所属リンパ節、あるいは全身のリンパ節の腫脹がみられる。有効な抗菌薬（第一選択薬はテトラサイクリン系）がありながら、なおも死亡例が報告されているため、早期に本症を疑い、適切な診断・治療を行うことが重要である¹⁾。

本疾患を予防するワクチンはないため、ダニの刺咬を防ぐことが極めて重要となる。農作業や草刈り、キャンプやハイキング等で山林や草むら等に立ち入る際には、以下の対策をとる¹⁻³⁾。

- (1)長袖長ズボンなど肌の露出が少ない服装にする
- (2)忌避剤（防虫スプレー）を使用する
- (3)地面に直接座らずにレジャーシート等の敷物を使用する
- (4)帰宅後はすぐに着替え、洗濯する
- (5)帰宅後はすぐに入浴する

■参考・引用

- 1) 国立健康危機管理研究機構：IDWR ダニ媒介感染症：つつが虫病・日本紅斑熱
<https://id-info.jihs.go.jp/niid/ja/tsutsugamushi-m/tsutsugamushi-idwrc/10682-idwrc-2136t.html>
- 2) 千葉県衛生研究所：つつが虫病に注意!
<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/eiseikenkyuu/virus/documents/tsutsugamushi.pdf>
- 3) 千葉県健康福祉部疾病対策課：ダニ媒介感染症について
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/tick.html>